

総合ゼミ報告——今年度の実施状況

畑 陽子 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学領域）

1. はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）では、週に一度音楽学コースに所属する学生と教員が集まり、それぞれの研究発表やそれに関する意見交換が行われる。2006年度に開設された「音楽学コロキウム」（学生と教員が同じ立場で発表し意見を交換するオープンな場を目的として開設）が母体となっており、2008年度に「音楽学研究総合ゼミ」としてカリキュラムに組み込まれた。学部生は必修で、大学院生も原則として出席することになっている。

総合ゼミではこれまで、音楽学コースの教員や学生によって交代で行われる研究発表が主として行われていたが、本年度（2015年度）は例年に比べ、より多くの外部の研究者をゲストスピーカーとして招き、レクチャーしていただくことができた。また音楽分野以外の研究者にもご登壇いただき、内容は多岐に渡った。

本稿では、主に本年度のゲストスピーカー（本学の音楽学コース所属以外の研究者および学外の研究者）の講座について報告する。

2. 本年度の総合ゼミにおけるゲストスピーカーによる講座

本年度行われたゲストスピーカーによる講座を以下に示す。なお講座名から内容が判断しにくいものは説明を加えた。

■ 5月14日 管木真治氏（SILAKKA PRODUCTIONS 代表、ヘルシンキ在住）

「シュトゥックハウゼンの《習作Ⅱ》をめぐって」

■ 5月28日 小林英樹名誉教授（愛知県立芸術大学・油画）

「画家が表現したかったこと（1）」

本講座は、11月12日に行われた同タイトルの講座と連続講座として開講した。（11月12日の欄にて説明）

- 6月4日 ロッセツラ・メネガッツォ准教授（ミラノ大学）
「日本とイタリアの美術交流～コレクションと展覧会をめぐって」
- 6月18日 高梨光正准教授（愛知県立芸術大学・芸術学）
「16 – 17 世紀の美術と音楽にかかわるペトラルカ主義——文学、美術、音楽の関係」
- 6月25日 長谷義隆氏（中日新聞社・編集委員）
「芸能・文化報道の現場から——グローバルな目線と歴史を見据えた視点で」
- 7月2日 森真弓准教授（愛知県立芸術大学・デザイン）
「音楽学の学生のためのインフォグラフィックス講座」
本講座では、音楽学コースの学部3年生と4年生が自分の研究内容を1枚のパネルにまとめ、それに対して「伝えたいことがより効果的に、視覚的に伝わる」にはどうしたらよいか、具体的にご指導いただいた。
- 7月16日 畑野小百合氏（ベルリン芸術大学大学院）
「音楽学への道、音楽学の旅路——ヘルマン・ヴォルフ音楽事務所の足跡を探して」
- 10月15日 村田四郎名誉教授（愛知県立芸術大学・フルート）
「村田四郎のここでしか聞けない話」
本講座では、楽曲の解釈、表現を大きく左右する「楽語」について、作品を取り上げながら「楽語辞典」で示されている言葉の誤りや説明されていない点などについて講演して下さった。
- 11月5日 永井玉藻氏（パリ第4大学・音楽学）
「東京・パリ音楽学紀行——あるいは20世紀フランス音楽研究の一側面」
- 11月12日 小林英樹名誉教授（愛知県立芸術大学・油画）
「画家が表現したかったこと（2）」
本講座は5月28日に開講された同タイトルの講座と連続で行われた。ジョット、レオナルド、レンブラント、フェルメールらを取り上げ、作品を見ていく中で「画家たちが何を表現したくて、どう描いたか」ということを、スライドで作品を示しながら絵画的視点、総計的視点から作品を読み解き、音楽専門の学生にも分かりやすく解説して下さった。

■ 11月26日 三木隆二郎氏（NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク、大森室内楽愛好会）

「アウトリーチ・コンサート企画運営の心得～アートをつなぎ手として～」

■ 1月7日 山口真季子氏（愛知県立芸術大学非常勤講師・音楽学）

「ヘルマン・シェルヘンによるシューベルト解釈——交響曲ロ短調 D759《未完成》第一楽章を中心に」

■ 1月14日 大河内隆之氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所主任研究員）

「ヴァイオリンなどの弦楽器や文化財の年輪年代測定について」

■ 1月28日 ユリア・シュローダー氏（音楽学者・在ベルリン）

「機能的な動きと美学的な動きの間で——20世紀後半における音楽と舞踊の関係」

3. おわりに

本年度は、多様な分野の専門家による講演に恵まれた一方で、音楽学コース内での発表や報告は少なくなってしまった。井上先生と増山先生が2回ずつ、安原先生は1回担当された。学生による研究発表は、学部4年生が1回、3年生が2回行った。

また、ゲストスピーカーによる講座も含め、講義や発表が授業時間いっぱいまで行われ、質疑応答の時間がなくなってしまうという問題がこれまでもあったが、本年度より学生に義務付けたコメントシートへの記入（感想、疑問等）によりある程度カバーできたと思われる。回によっては、ゲストと生徒たちが一緒にランチを食べる機会が設けられ、それぞれが持った疑問や意見を交換し、共有することができた。